



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：経済状況（9月3日～4日付現地報道）

1. パールス・エネルギー経済特区からの輸出（4日イラン・デイリー紙）

パールス・エネルギー経済特区（PSEEZ, Pars Special Economic Energy Zone, 1998年設立）のプールヘイダリー（Purheidari）長官によると、2011年9月～2012年9月にかけて、アサルーイエ港（Bandar-e 'Asaluye, PSEEZの拠点となる港）からポリエチレン、ガスコンデンセート、プロパン、ブタン、ベンゼンを含む商品（総額160億ドル）が出荷された。うち、ガスコンデンセートが最も多く、160億ドルのうち70億ドルを占める。輸出先は中国、日本、UAE、インド、インドネシア、ベルギー、スペイン、トルコなどである。

2. エスファハーン石油化学コンプレックスの閉鎖（3日付ハムシャフリー紙）

国営石油精製会社総裁は、エスファハーン石油化学コンプレックス（生産能力30万トン）が、債務増大とエスファハーン油田からの原料供給が不安定であることから、閉鎖されることとなったと述べた。

3. 粉ミルクの輸入再開（3日付シャルグ紙）

商業・工業鉱山省は2日、1年半ぶりに外国から粉ミルク（2万トン）を輸入した。粉ミルク10kgでミルク11kgを生産することが可能であり、他にもビスケットやアイスクリーム等に使用される。しかし、今回の措置は、価格改善および生産効率の上昇には繋がらないことが明らかである。

4. 南ヤーラーン油田の開発（4日付イラン・ニュース紙）

国営石油エンジニアリング開発会社（PEDEC, Petroleum Engineering and Development Company）総裁は、イラクと接する南ヤーラーン油田（South Yaran Oilfield）の開発に着手したことを明らかにし、油田開発には、イラン国内からの資本とPEDECが有する技術を用いていくと述べた。同油田は、イラン南西部カールーン（Karun）川西域に位置し、開発後は日量6万バレルを生産する予定。

5. 非同盟諸国会合開催による経済効果（4日付イラン・ニュース紙）

文化遺産・手工芸・観光庁のジャハーニヤーン副長官は、非同盟諸国（NAM）会合開催によるイラン観光産業への経済効果について、開催前は5,000万ドルの経済効果を見込んでいたが、開催後は予想以上に宿泊客があったとした。